

2020年12月期 本決算説明資料

1. 2020年12月期 実績
2. 2021年12月期 業績見通し

Precision for a changing world

精密加工技術で社会環境の変化に対応していきます

2021年2月12日
株式会社ツバキ・ナカシマ
(東証一部 6464)



1. 2020年12月期実績



FY2020 業績ハイライト

売上、利益とも第2四半期をボトムに、第3四半期以降は増加基調

売上

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、売上収益は520億円（為替影響を除き、前期比18.4%減）
- 2020年第4四半期の売上収益は153億円（前四半期比20.0%増）。アジア市場が32.4%増、セラミックボールが15.9%増、海外のお客様が12.9%増と、前四半期比いずれも2桁増

利益

- 営業利益は36.1億円（為替影響を除き、前期比55.2%減）
- コスト改善と販管費圧縮が利益の下支えに貢献し、ボトムの第2四半期も黒字を維持、第3四半期以降は増益基調が明確に

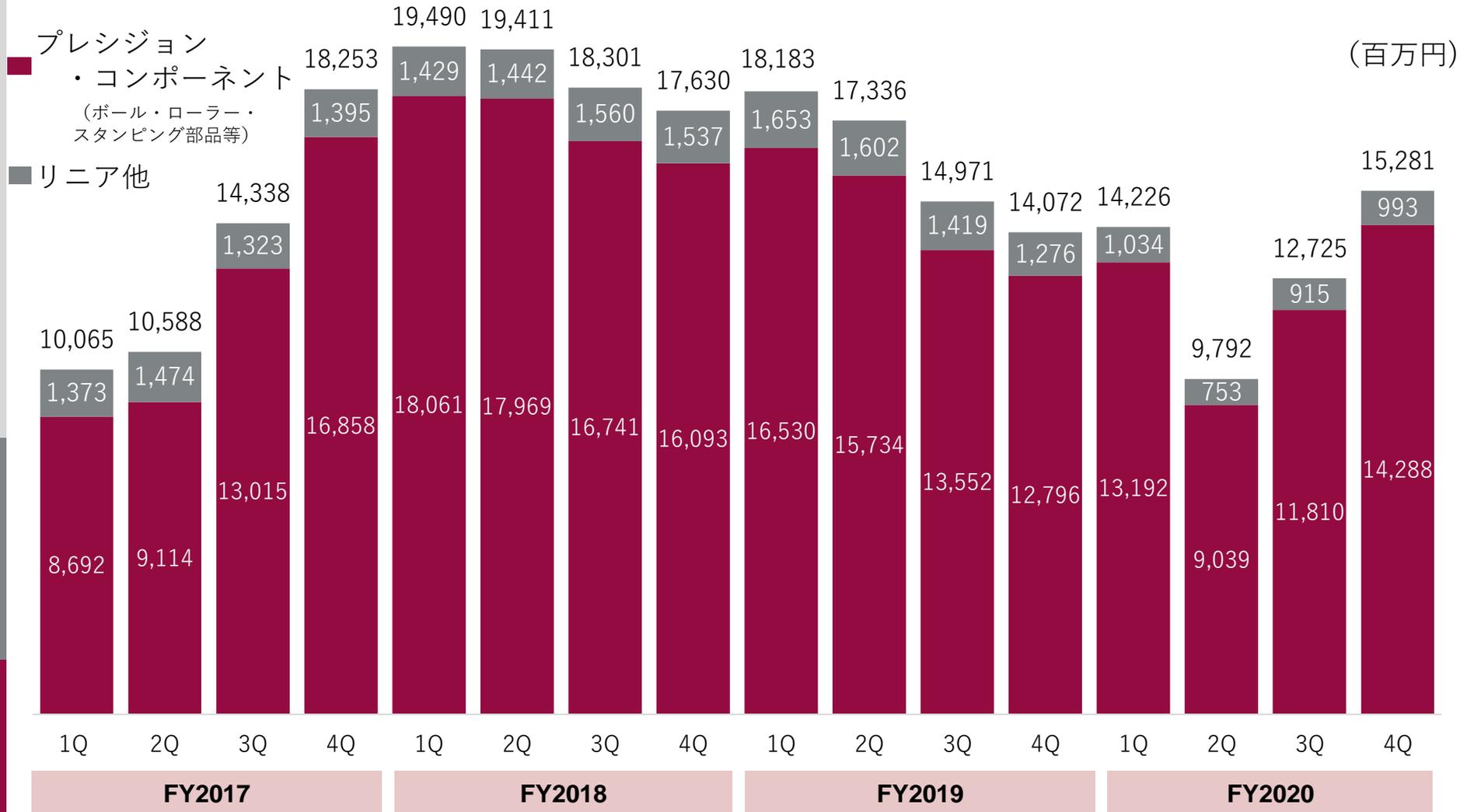
配当

- 期末配当は、昨年12月のガイダンスを2円上回り14円/株を予定
- 年間配当額は、中間配当10円/株とあわせ、24円/株の予定



四半期 連結売上収益推移

2020年第4四半期の売上収益は、前四半期別を大きく上回る153億円
150億円を超えるのは、2019年第2四半期以来





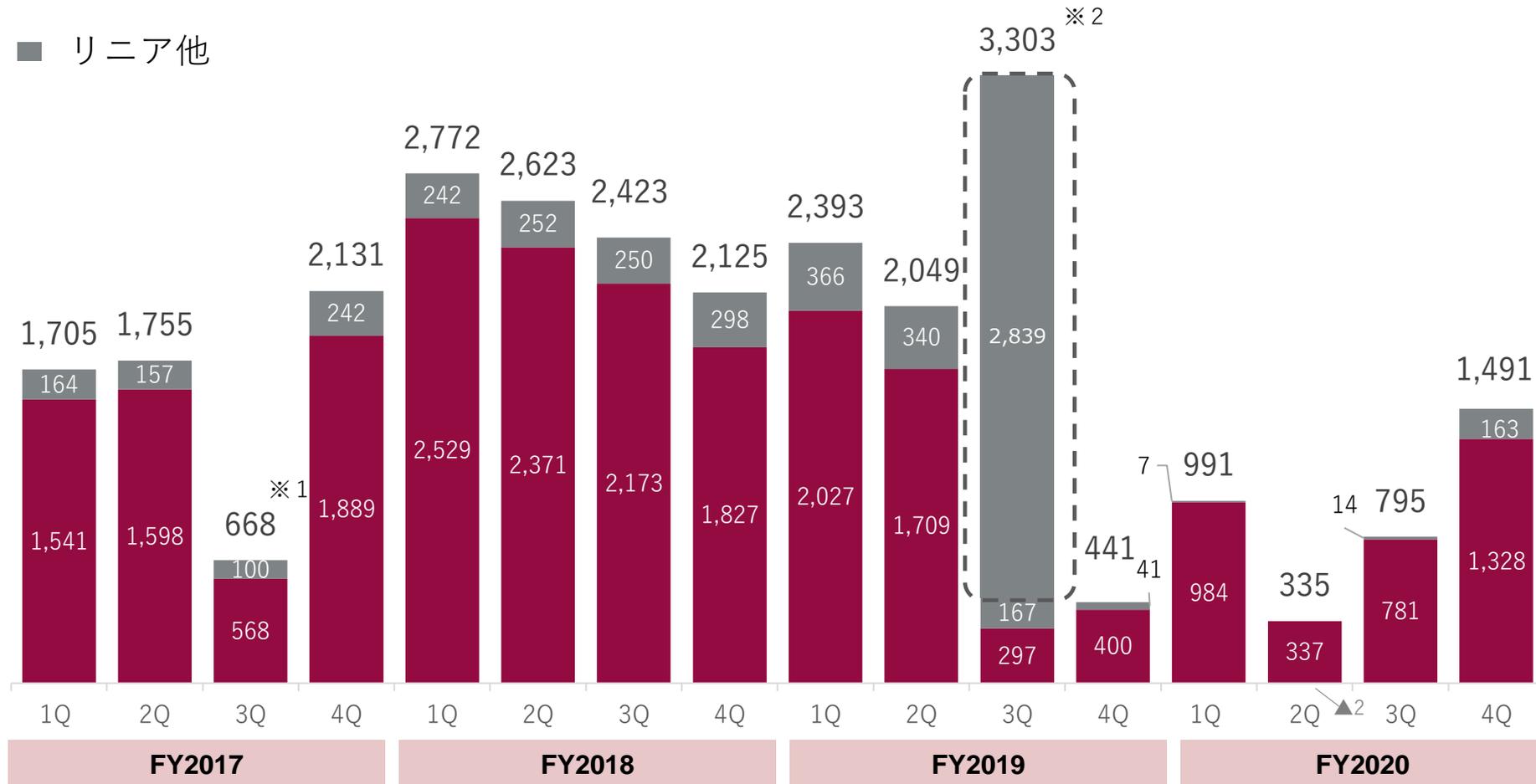
四半期 連結営業利益推移

2020年第4 四半期営業利益も、前四半期を大きく上回る14.9億円

(百万円)

■ プレシジョン・コンポーネント

■ リニア他



※1 PBC事業買収関連費用(1,285百万円)反映後

※2 資産売却益(2,839百万円)を含む



FY2020 連結業績 前期比

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大した影響を受け、
為替影響を除いた売上収益は前期比18.4%減、営業利益は同55.2%減

(百万円)

	FY2019	FY2020			
	実績	実績	為替影響	増減額※1	増減比※1
売上	64,563	52,024	▲689	▲11,850	▲18.4%
営業利益	8,186	3,611	▲57	▲4,518	▲55.2%
対売上(%)	12.7%	6.9%	—	—	—
EBITDA	11,538	6,953	▲96	▲4,489	▲38.9%
税前利益	7,214	2,572	92	▲4,734	▲65.6%
当期利益	4,891	1,877	126	▲3,140	▲64.2%

※1 “増減額”及び“増減比”は為替影響を除く



FY2020 セグメント・地域別売上 前期比

プレシジョン・コンポーネントセグメントの減少幅はマクロの減少幅に比べて小さく
相対的にはポジティブ (百万円)

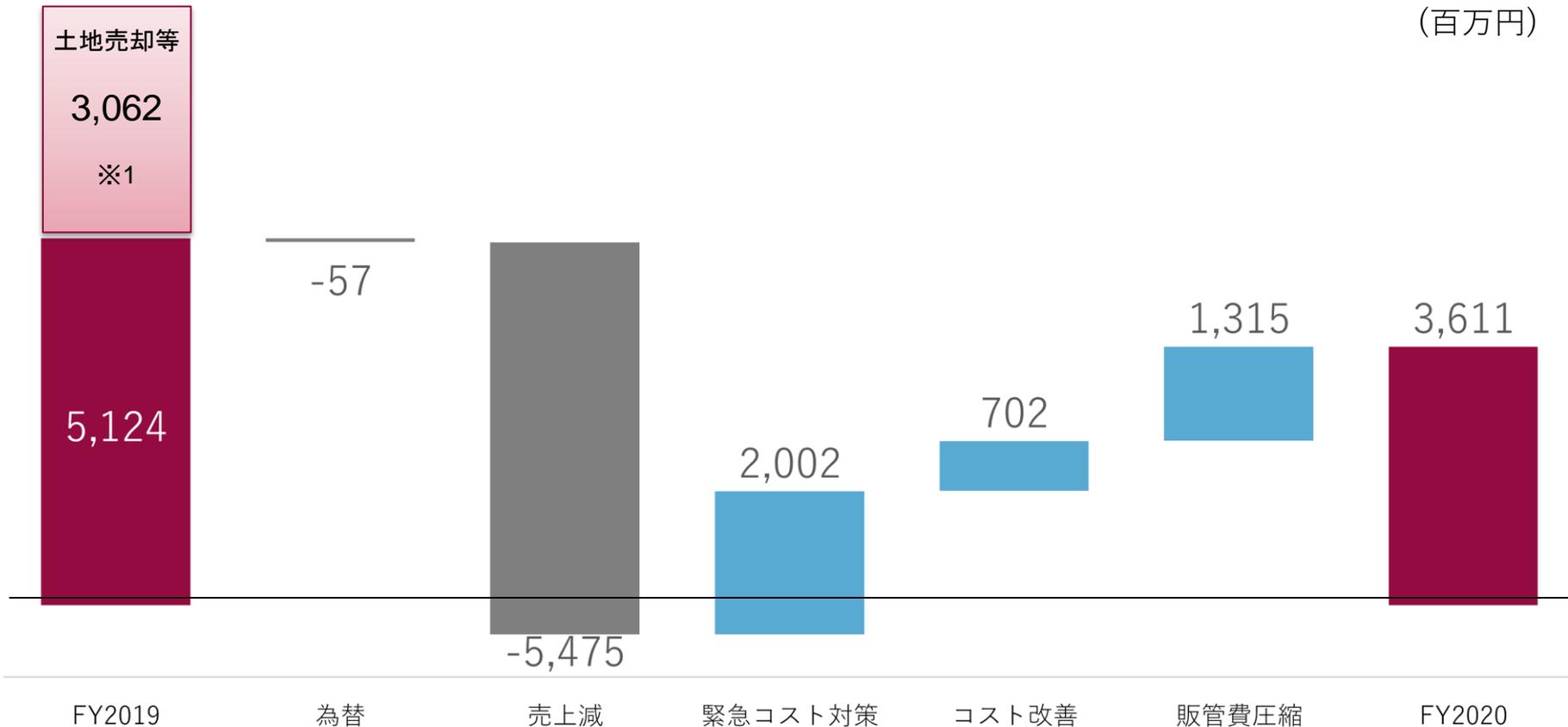
	FY2019	FY2020			
	実績	実績	為替影響	増減額※1	増減比※1
グループ連結	64,563	52,024	▲689	▲11,850	▲18.4%
プレシジョン・コンポーネントセグメント※2	58,615	48,329	▲707	▲9,579	▲16.3%
日本	11,052	9,485	—	▲1,567	▲14.2%
北米	13,045	10,826	▲231	▲1,988	▲15.2%
欧州	22,053	17,013	▲165	▲4,875	▲22.1%
アジア(中国他)	12,473	11,005	▲311	▲1,157	▲9.3%
リニア他セグメント	5,948	3,695	18	▲2,271	▲38.2%

※1 “増減額”及び“増減比”は為替影響を除く
※2 セグメント間収益を除く



FY2020 営業利益 増減要因

新型コロナウイルス感染症による売上減のインパクトが大きいなか、
経営努力により黒字を維持



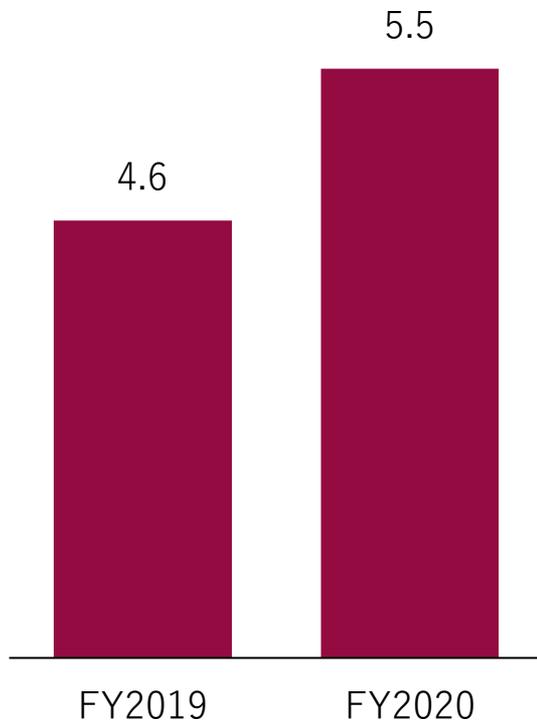
※1 2019年度実施した賃貸用土地売却に伴う売却益と家賃収入減。



BS/CFにおける業績

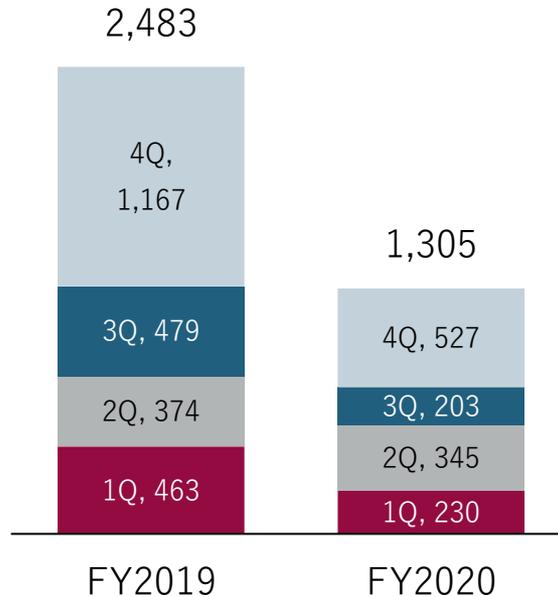
棚卸資産回転月数(月)

対前期末、在庫削減は達成している一方、売上減少により回転率は高止まり



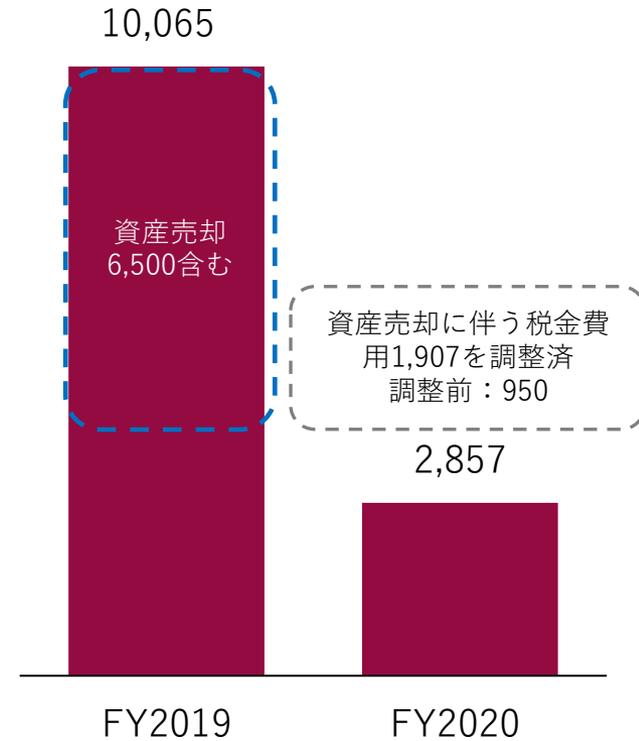
設備投資額(百万円)

当初予算26億円に対し、環境の変化に速やかに対応、選択的投資に集中して投資額を抑制



調整後フリーキャッシュフロー(百万円)

厳しい環境の中、FCFはプラスを維持



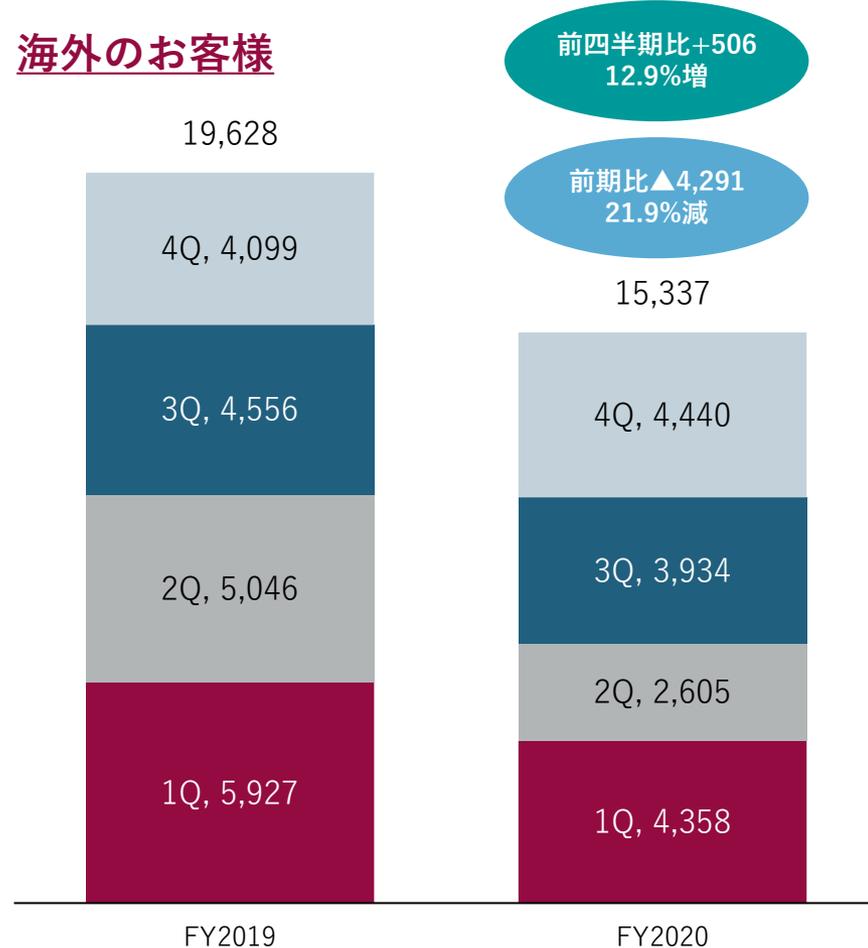


FY2020 販売戦略の進捗

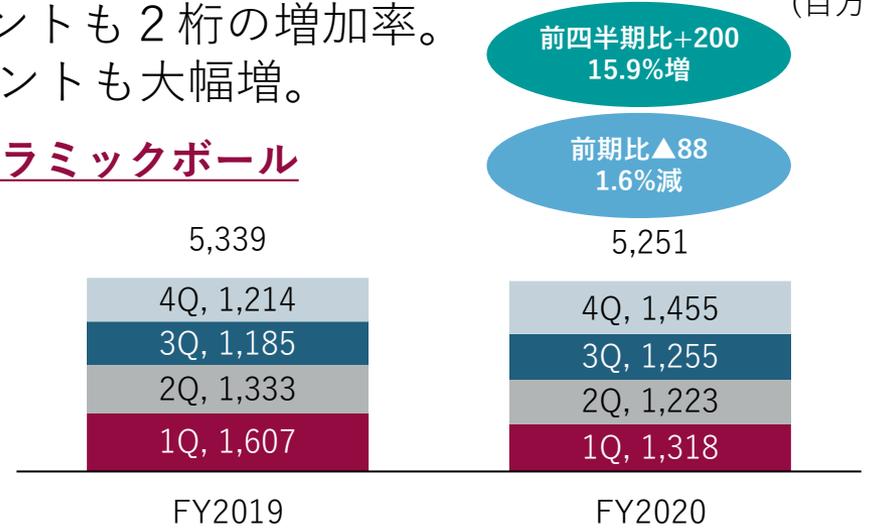
第4四半期の前四半期比はいずれのセグメントも2桁の増加率。
2019年第4四半期比でも、いずれのセグメントも大幅増。
セラミックボールは約20%の伸び

(百万円)

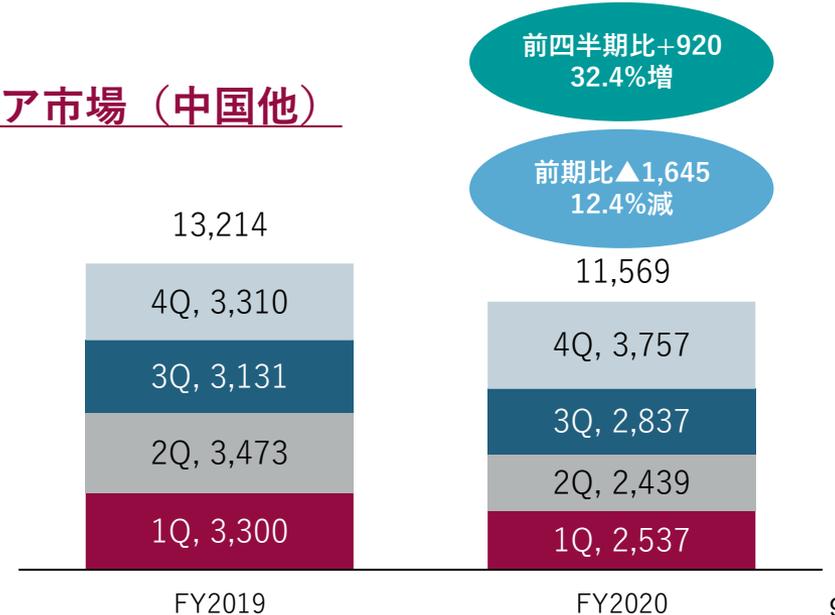
海外のお客様



セラミックボール



アジア市場（中国他）





2. 2021年12月期 業績見通し



2021年の経営方針

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により異例な年に。
2021年は成長戦略を軸に、リカバリーする。

成長戦略

- マクロ回復を確実に捉え、成長戦略により、売上げの上乗せを行う
- セラミックビジネスの拡大・成長
- メディカルデバイスビジネスの構築
- アジア市場での拡販本格化

売上・利益

- コスト改善を継続しながら固定費コントロールを行い、売上げが営業利益増に直結できるマネジメントを実行する
- 売上収益608億円（対前年16.9%増）、営業利益61億円（同68.9%増）を実現する

株主還元

- 一株当たり年間配当46円（対前年91.7%増）を目指す

2021年12月期業績見通し



(百万円)	FY2020		FY2021			
	実績	売上比	見通し	売上比	増減額	増減比
売上収益	52,024	100.0%	60,800	100.0%	8,776	16.9%
営業利益	3,611	6.9%	6,100	10.0%	2,489	68.9%
税引前当期利益	2,572	4.9%	5,200	8.6%	2,628	102.2%
当期利益	1,877	3.6%	3,700	6.1%	1,823	97.1%
基本的1株当たり当期利益(円)	46.64	—	91.95	—	45.31	97.1%
一株当たり配当 (円)	24	—	46	—	22	91.7%

想定為替レートは、1ドル107円、1ユーロ121円、1人民元15.4円
 (実績：2020年期中平均レート 1ドル106.82円、1ユーロ121.81円、1人民元15.48円)



免責事項

本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載（推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます）が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいません。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。